

2年生 音楽科指導案

指導者 後藤志津子

- 1 日 時 平成23年6月22日（水） 第5校時
- 2 題材名 日本の歌を歌い継ごう
教材名 「浜辺の歌」 林 古溪 作詞 成田 為三 作曲
- 3 題材目標 曲想を感じ取り旋律の表現方法を考えることを通して、場面にあうような表現を工夫することができる。
(音楽的な感受と表現の工夫)

歌詞の内容や曲想を生かした表現をするために必要な技能を身につけて歌うことができる。
(表現の技能)

4 本題材における生徒の実態と題材構成

(1) 研修テーマに迫る手だて

研修テーマ「じっくり考え 表現できる子 ～進んでかかわり、自分を深める～」の、中学校2年生の具体的な姿を

- ①より確かな根拠や裏づけのある考えを持つ。
- ②適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える。
- ③交流したことを生かし、理由や根拠をはっきりさせて、論理的に表現する。

と設定している。そこで、音楽科では、「自分の表現と友達の表現を比較したり取り入れたりして、自己のよりよい表現を求めていく。」と捉え、旋律の山に当たる3段目について小グループで考え歌唱表現していくことにした。小グループにすることで表現についての考えを他者に言葉で伝えたり、歌ったりする場面の充実を図り、音楽的思考や表現の力を高めていきたい。また、小グループ内で自分の考えを発言する場合には、表現の根拠となるものを音楽を形づくっている要素を示したりどのような方法で歌ったりしたらよいかまで述べさせたい。これらの言語活動を充実させることにより、音楽の本質である「音によるコミュニケーション」の質的充実にも結び付けられると考えている。

(2) 生徒の実態と願う姿・手だて

1年時「日本の歌」として「夏の思い出」「赤とんぼ」を取り上げ、日本歌曲の旋律の美しさを感じ情景をイメージしながら歌うことを大切にしてきた。歌詞の内容もわかりやすくどのように表現していきたいかというイメージは持つが、それをどのように表現に結びつけていったらよいかということに対しては難しさを感じて終わった生徒も見られる。その後の題材においても、歌詞の内容や言葉をキーワードとしてそこから生まれるイメージを持つことや表現方法について考えることを繰り返し行ってきた。そのため、少しずつではあるがイメージをどう自分の体を使って表現できるのかについて考えることができるようになってきた。2年時では、旋律が美しく歌詞の内容も理解しやすい、また曲想についてもイメージを膨らませやすい「浜辺の歌」において、曲に対する思いやイメージをどう表現につなげられるかについて考えさせていきたい。

本題材は、「合唱の響き」の次の題材にあたる。教材「夢の世界を」「翼をください」において、他のパートとの縦の響き（ハーモニー）を感じながら合唱を行ってきた。各パートで音のバランスや言葉の表現について考え合唱づくりを行ってきたので、表現についてなどの意見を言い合ったり、歌声を出し合ったりする場面において、友達の発言や歌声に頼ってしまう生徒が見られた。多くの友達と一緒にあれば、自分も声を十分に出して歌えるという点が合唱の良さであるが、一人ひとりの音楽的思考や歌唱表現の力、また友達との言葉や音によるコミュニケーションの力を高めていきたいと考え、小グループでの歌唱を設定した。本題材では、曲想表現について自分の意見を言ったり友達の考えに触れたりする中で、どのようにすればよりイメージ通りに歌えるかいろいろ試しながら歌唱していくことになる。曲との出会いがその後の表現活動において非常に大切になるため、音楽や歌詞からだけでなく、浜辺の写真を提示したり波の音を聴いたりすることでもイメージを膨らませていきたい。また、表現について考える時には音楽を形づくっている要素をいくつか絞って考えさせていく。そうすることで、自分のイメージしたと要素を結びつけやすくなる。机間指導の中では、それぞれのグループでの表現における工夫点や演奏のよさを認めていくと共に、全体に広め表現の多様性についても触れさせていきたい。

5 指導計画（4時間扱い）

1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜辺の情景や様子をイメージし伝え合う。 ・ 歌詞の内容を理解し、旋律の音取りをする。 ・ 拍子と指揮法の確認。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形式について、既習曲を元に考える。 ・ 歌やピアノの旋律を聴き、浜辺の情景が一番感じられる所について考え（付箋に書き拡大楽譜に貼りながら）発表する。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3段目の旋律についてや、表現方法について考える。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ発表。 ・ 何人かの歌手やいくつかの演奏形態で浜辺の歌を聴き、自分の好みの演奏について感想を書く。

6 本時の授業（3／4）

（1）本時の目標

曲想を感じ取り旋律の表現方法を考えることを通して、3段目にあった強弱・旋律・リズムなどの表現を工夫することができる。（音楽的な感受と表現の工夫）

（2）着目生徒について

本題材で着目する Aさんは以前、歌唱において音程を合わせて歌っていくことが容易でなかったが、ソルフェージュを進めていく中で、音符の動きをよく見ながら歌うことを意識するうちに音程を自分で合わせられるようになってきた。そのため、歌唱においても自信を持って声を出すようになり合唱でもしっかりと聴き手に伝わるような声で歌うことができるようになった。ソルフェージュにおいても、短い時間の中で何度も、「聴いてください。」と言ってくるようになり音楽室に移動したりすることも以前より早くなった。

また、曲の雰囲気を感じ取り構造的側面から思いや考えを持つことについては力がついてきたが、歌詞や言葉から情景をイメージしたりそこから生まれる感情を言葉にすることが難しい。そのため、実際にどのように歌ったらよいかという考えも持ちづらくなる。本題材においても歌詞や曲からだけでイメージを広めていくことは難いため、写真を見せたり波の音を聴かせたりしながらイメージを持ちやすくしたい。

本時においては、音楽を形づくっている要素を捉えるところは難しくないと思われるが、それをどのような方法で表現と結びつけていくかが難しいと思われる。そのために、既習曲「夢の世界を」に出てきた「f」「さあ 出かけよう」の「f」を歌う時はどのようにしてきたかを答えさせさせ、体や息をどのように使ったらよいかについて考えられるようにしていきたい。また、グループ活動では、同じグループで音楽的思考力が高いBさんを意図的に発言させ、AさんをBさんの考えに触れさせることで、音楽を形づくっている要素がどのように曲想に作用し、表現するためにはどのようにしたらよいかの考えを持ち歌唱できることを期待する。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	○支援 ☆着目生徒 ■評価
つくる	<p>1 全員で「浜辺の歌」を歌う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3 段目が一番浜辺の情景を強く感じられたのはなぜだろう。</p> </div> <p>2 前時にその場所を選んだ理由を発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ m f や f で、強めに演奏されていたから。(強弱) ・ 高い音域で歌われているから。(旋律) ・ 6 / 8 拍子の拍子感が大きな波のように感じられたから。(リズム) ・ 他の3段とは違う作り方だから(形式) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(聴き手に) 3 段目で浜辺の情景を一番感じてもらうためには、どのように歌えばよいだろう。</p> </div>	<p>○ 6 / 8 拍子の拍子感を意識しながら歌うことができるように、拍を意識した伴奏をする。</p> <p>○ 様々な音楽を形づくっている要素の働きがあるから、曲想を生み出し、情景を最も強く感じられたことを押さえる。</p>
交流する	<p>3 強弱・旋律・リズムの表現について個人で考え、グループで歌う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2 段目よりも音量を強くするために、ブレスの場所でたっぷり息を吸って歌うようにする。 ・ 「雲のさまよ、かえす波よ」がこの曲で1 番盛り上がるように、時間をかけてブレスをしてたっぷり歌う。 ・ crescendo の時は、息のスピードを速めて歌う。 ・ 高い音域なので、お腹の支えをしっかりとつけて歌う。 ・ 6 / 8 拍子の拍子感を感じ、1 拍目と4 拍目を意識して歌う。 </div>	<p>☆ 強弱・旋律・リズムに視点を定めた上で考えさせ、グループ練習において評価アドバイスをする。</p> <p>☆ B さんに発言を求め、B さんの考えも参考にできるようにする。</p> <p>・ 各グループに1 台オルガンを置く。</p>
振り返る	<p>4 聴き合い会をし、聴き手グループは演奏について、アドバイスをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 段目の m f や f で浜辺の様子が伝わった。 ・ 歌でも 6 / 8 拍子の拍子感が出て、波の様子が歌でも感じられた。 ・ 3 段目の crescendo で、だんだんと息のスピードを速くすれば音が強くなっていく。 </div> <p>5 3 段目の表現についての振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強弱・旋律・リズムに視点をおいて歌うと、浜辺の感じがうまく表現できるな。 ・ 作曲家は、作詞家が書いた詞の情景を表現するために、いろいろ工夫をして音楽を作っているんだな。 </div>	<p>○ いくつかのグループに代表で演奏をしてもらい、よい表現を取り入れるように伝える。</p> <p>・ 2 グループずつ3 箇所で行う。</p> <p>・ 工夫点を言ってから、最初から最後まで歌う。</p> <p>■ 場面の特徴をとらえ、強弱・旋律・リズムなどの表現を工夫することができたか。(音楽的な感受と表現の工夫)</p>